



(西田 一生 光陽ファイナンストレード執行役員)

私の好きな一文字

先物協会ニュース

JCFIAマンスリー

JCFIA

JAPAN COMMODITY FUTURES
INDUSTRY ASSOCIATION

発行 日本商品先物振興協会

〒103-0016

東京都中央区日本橋小網町9-9

TEL(03)3664-5731 FAX(03)3664-5733

http://www.jcfia.gr.jp/

FUTURES PLAZA

商品先物業界では2004年末に委託手数料が完全自由化されました。しかし、先行して手数料自由化の波に洗われてきたネット取引の現状が示すように、ハコ物や手数料の競争では限界点があります。また、こうした競争だけでは企業カラーに差がつかないといわれます。

今後は「何をウリにするのか」「どうやってウリのか」が重要となるでしょう。前者は情報サービスであり、個別コンサルティング業務などで、後者はメディアへの露出やスポンサリングを用いた企業宣伝活動などでしょう。

個人的には職業柄からも前者について、大きく拡大し



未開の地を切り開こう

ひまわりCX

アナリスト(営業企画部所属) 緒方 史法

ていく余地を感じています。情報とは目に見えない商品ですが、これまでは漠然としたものである場合が多かった。多くの業者がひしめく中で、氾濫する情報ベンダーからの一元的な情報ではなく、オリジナリティーに溢れた情報の提供を行っていくことが、非常に重要なツールになつていくと考えています。

今年、海外市場では素材原料価格、一次産品価格全般にわたる市況高騰を受けて、商品先物市場や商品指数であるCNRB指数先物にインデックス系ファンド資金と呼ばれる新たな資金流入がみられています。また、原油価格や非鉄価格と株式指

数、為替、素材関連株価を股にかけて手がけるマクロ系ファンド資金も多いようです。

国内先物市場でも金融系資金の流入増加が観測されています。金融業界の垣根が次第に取り払われていくなかで、従来の狭い殻にとらわれず、より広大な未開の地を切り開くことが必要となります。

輸入・輸出大国であるわが国にとって、輸入・一次産品の価格やその価値を左右する為替に関する情報こそが、企業活動や企業収益を左右するものといつて過言ではありません。

従来から市場参加頂いている個人投資家の方や機関投資家だけでなく、例えば一

般企業の事業計画にまで関与するといったように、実業界でも重要な位置を占めることが必要であると考えています。今後、業界が広がる余地は大きく、自らの存在価値を高めるべく目を見開くときではないでしょうか。

【プロフィール】
石油化学など異業種を経て商品業界入り。99年から一次産品価格分析の執筆・評論活動を展開。98年「現在まで飼料輸出入協議会機関誌へ寄稿、同発行の飼料原料ハンドブック執筆にも参加。食品や飼料業界を対象としたサイトを1996年から運営。

先物協会臨時総会

平成17年度
事業計画・予算決まる

収支予算21%減

先物協会は3月17日、東京穀物商品取引所の2階大会議室で第6回臨時総会を開き、平成17年度の事業計画と前年度予算比21%減の収支予算を決めた。新年度の大きなテーマは、出来高減少予想を映した緊縮予算であった。大きく変わる業界環境に対応して業界振興を図るとのこと。会員88社のうち、代理人、委任状、書面による審議参加を含め85社が出席して審議、新時代のスタートを切った。

速やかな新制度定着を図る



先物協会臨時総会

大学における商品先物市場・リスク管理に関する開講支援は、青山学院大学、多摩大学大学院、専修大学、帝京大学の4大学。

若手研究者を対象とした助成金制度は継続する。

(Ⅲ) 広報事業

新年度の広報事業の柱は、①商取法改正による新制度の啓蒙②商品先物取引の基本的知識(差金決済取引、証拠金取引)の普及、③商品先物市場を価格変動のリスクヘッジや、公正な価格形成機能を有する産業インフラとして認知されるようにすること。

これらによって、社会と共生する新しいイメージを確立し、自己責任による取引の定着を目指す。

普及キャンペーンを展開

新年度の広報事業の核となるのは、新法施行の認知拡大を図る商品先物取引普及キャンペーンの実施。「商品先物取引が変わる」ことをアピールするキャッチフレーズの一般公募、リスク・マネジメント・シンポジウムや投資家セミナーの開催など一連のイベントで新制度の啓蒙を図る。また、新たに、一般生活者に投資に関する知識の普及を図るためのシンポジウムを取り所と共同で開催する。

なお、今年度実施した「商品先物なつとくスクール」は中止した。

新聞等の広告は、投資家を対象とした一般紙・投資情報雑誌での広告を引続き行うほか、平成14年1月から連載中の突出し広告は隔週で継続実施することとした。

産業界向けの啓蒙として

改めて厳しい姿勢示す

勧誘行為規制で主務省



品先物取引協会の第15回臨時総会での主務省挨拶の主旨だ。5月1日施行の改正商品取引法の眼目の一つである委託者保護に関する商品取引員の勧誘行為に係る規制の解釈指針(いわゆるガイドライン)について、改めて厳しい姿勢を示した。

「ある日突然厳しくなるものではない。省令レベルでは平成10年の法改正時と同じルールだ。問題はルールがあっても現場で機能するかどうか。徹底して実効性を上げないといけない」と農林水産省・田辺義貴商品取引監理官。

「厳正な執行に不退転の決意で臨む。これまで先物に関ってきた人が残してきただけのツケを払う時期にさしかかった。信頼性を高める最後のチャンスかもしれない。関係団体・組織の連携で厳しく対処していただきたい。最後は、経営者一人ひとりの心構えにかかっている」(経済産業省・宮本聡商務課長)。

平成17年度収支予算概要(前年度予算額対比)

	17年度	16年度	前年度比
会費収入	454,435	525,570	86.5%
雑収入	25	3,309	0.8%
運営準備金取崩収入	90,000	130,000	69.2%
前期繰越収支差額	54,149	94,275	57.4%
収入合計	598,609	753,154	79.5%
事業費	397,984	535,304	74.3%
1.制度改善推進事業費	13,819	47,265	29.2%
2.企画調査事業費	60,769	79,570	76.4%
3.広報事業費	323,396	408,469	79.2%
広報事業検討費	2,916	2,734	106.7%
広報実施費	238,508	309,535	77.1%
パンフレット等作成諸費	38,080	50,733	75.1%
各種セミナー開催費	33,959	35,534	95.6%
協会事業推進費	9,933	9,933	100%
事務所費	185,625	187,850	98.8%
予備費	15,000	30,000	50.0%
支出合計	598,609	753,154	79.5%

収支予算の概要は左表の一通り。

事業費は前年度予算比26%減

東京都目黒区にある東京学園高校(旧東京商業学校)は創立から125年を数える男子校である。ふとした奇縁から同校で一場の講演を依頼され、校史を綴りてみた。すると、意外な発見があった。開校が明治22年2月11日で帝国憲法発布の日を同じうしていたことだ。そして場所が日本橋区蛸薬町一三、東京米穀取引所(当時米商会所)のすぐそばで、空き家になっていた米穀仲買店を借り受けてスタート。昼間は兜町や蛸薬町で働く若者の夜間教育の機関として発足、初年度の入学者は159名にのぼった。開校式で初代校長の浜田健次郎は未来に向けて決意を和歌に託した▼「教へつ教へられつ。もともとに御国富まさむ道ひらきてむ」。上の句に浜田の人柄がにじみ出ている。開校直前の2月6日、悲劇が起こった。筆頭発起人として開校に情熱を燃やしていた青木貞三が急性肺炎のため32歳の若さで急逝したのだ。青木は信州松本の人、当時は米商会所の頭取として蛸薬町の期待を一身に背負っていた人物でもある▼「青木貞三は若くして実業界の鬼才として一代の視聴を集め、田中平八と新橋の美妓を争うなど、豪放な一面があったが、未来ある青年を愛し、多くの青年を自宅に寄食させたばかりか、私財を投じて秀才を海外に留学させた。りもした」(石田朗著「米穀取引所 戦前の理事長」)。

▼市場経済発祥の地で産声を上げた同校の現代っ子たち「少年よ、リスクを抱け」と投機心を訴えようかと思っている。(泉)

先物春秋

区にある東京学園高校(旧東京商業学校)は創立から125年を数える男子校である。ふとした奇縁から同校で一場の講演を依頼され、校史を綴りてみた。すると、意外な発見があった。開校が明治22年2月11日で帝国憲法発布の日を同じうしていたことだ。そして場所が日本橋区蛸薬町一三、東京米穀取引所(当時米商会所)のすぐそばで、空き家になっていた米穀仲買店を借り受けてスタート。昼間は兜町や蛸薬町で働く若者の夜間教育の機関として発足、初年度の入学者は159名にのぼった。開校式で初代校長の浜田健次郎は未来に向けて決意を和歌に託した▼「教へつ教へられつ。もともとに御国富まさむ道ひらきてむ」。上の句に浜田の人柄がにじみ出ている。開校直前の2月6日、悲劇が起こった。筆頭発起人として開校に情熱を燃やしていた青木貞三が急性肺炎のため32歳の若さで急逝したのだ。青木は信州松本の人、当時は米商会所の頭取として蛸薬町の期待を一身に背負っていた人物でもある▼「青木貞三は若くして実業界の鬼才として一代の視聴を集め、田中平八と新橋の美妓を争うなど、豪放な一面があったが、未来ある青年を愛し、多くの青年を自宅に寄食させたばかりか、私財を投じて秀才を海外に留学させた。りもした」(石田朗著「米穀取引所 戦前の理事長」)。

▼市場経済発祥の地で産声を上げた同校の現代っ子たち「少年よ、リスクを抱け」と投機心を訴えようかと思っている。(泉)